

電力システム改革における市場メカニズムの活用で留意すべき点は何か？

服部 徹

電力システム改革貫徹のための小委員会では、ベースロード電源市場の創設や連系線利用ルールの見直しによる更なる競争の促進とともに、安定供給に必要な供給力を確保するための容量メカニズムや、政府の定める非化石電源の比率を実現するための非化石価値取引市場の創設などの方針が決まった。公益的課題の解決にも市場メカニズムを活用し、わが国のエネルギー政策の目標をできるだけ効率的に達成しようという試みだ。

【市場の詳細設計の困難な道のり】

これから始まる個別の市場の詳細設計では、海外での導入事例も参考になるが、その経験を見ても、最初から完全な制度設計で落ち着くのは難しく、わが国でも、かなりの試行錯誤を余儀なくされるだろう。複数の市場の整合性をどう図るかという問題もすでに指摘されているが、短期間で多くの市場を創設するわが国の場合、整合性の問題を一つ一つ確認する余裕がない可能性もある。何か不具合が生じても様々な市場が相互に作用する複雑な状況の中では、その原因の特定も難しくなるかもしれない。試行錯誤の過程で生じる混乱が長引いて、事業者の経営にも悪影響を及ぼす事態は避けねばならない。

しかし、より良い制度設計に向けて機動的に修正を図る努力は必要であり、その結果として、適切な制度設計へと「進化」させていくことは可能だと考えるべきだろう。

【政策目標の達成に向けた制度設計の方向性】

電力システム改革においても、エネルギー政策の目標の達成を目指すからには、政府のエネルギー政策がブレないことが重要だが、その制度設計においては、これから創設される市場に期待すべき役割を理解することも重要と考える。

電力システム改革で目指すべき制度設計は、自由な競争を通じて効率的な資源配分を果たす市場メカニズムを活用し、市場参加者がその制度設計の下で合理的に行動した結果、政府のエネルギー政策の目標を最小コストで実現するというものである。そのためには、取引の自由を制限するベースロード電源市場への供出義務のような非対称規制はいずれなくしていくことが理想的だが、新たに創設されるものを含む様々な市場が、電力供給の効率化のみならず、十分な供給力の確保や非化石由来であることの価値を適切に反映するように設計されることが必要である。

【公益的課題の解決のための市場の課題】

その意味で、特に重要となるのは、公益的課題を解決するために創設され、政府や広域機関の権限による管理を必要とする新たな市場である。例えば容量市場や非化石価値取引市場を機能させるためには、小売事業者が一定の供給力や非化石電源由来の電力を一定の割合で確保する義務についてさらに明確にする必要がある。その義務を満たす要件に関する詳細ルールをどのように設定するかは、市場の価格に影響を与えるため、慎重な検討が必要である。

また、注意すべきことは、エネルギー政策の目標の具体的な達成手段の配分も制度設計の段階で決定してしまうと、その分、市場を活用するメリットが損なわれてしまうということである。例えば、容量市場の制度設計では、新設と既設で市場を分け、異なる価格をつけるべきではないかとの議論がある。容量市場が十分な供給力を効率的に確保するための市場になるには、新設も既設も対等な競争で同じ価格を受け取れるようにして、その配分は市場に委ねる方が効率的である。しかし、確保すべき容量の一部を必ず新設とするなど、事前に資源配分を決めてしまうことは、十分な供給力を最小コストで確保するという観点からは、価格を歪めることになり、追加的なコストにつながる。何のために新たな市場を創設するのか、その目的を明確にした上で制度設計に臨まなければならない。

【政府と市場の守備範囲を明確に】

政策目標の実現を前提とする市場メカニズムの活用は、ともすれば、制度設計が市場に過度な制約を設けて、結果的にコストが高くつく可能性がある。そのような可能性を考慮に入れ、エネルギー政策の目標の中で、政府が責任を持って推進する部分と、市場メカニズムの資源配分に委ねる部分をどう分けるのか、その線引きをよく検討することが重要である。それを政府と市場参加者が理解し共有することで、制度設計の試行錯誤に伴う余計な混乱も避けられるだろう。市場の詳細設計が始まる2017年は、その意味でも極めて大事な年となる。

電力中央研究所 社会経済研究所 事業制度・経済分析領域 副研究参事
服部 徹／はっとり とおる

1996年入所。博士（経営学）。専門は規制の経済学、応用計量経済学。